夕の介

はまべ　并二

哥ど初をあらきわ

源氏二十六
六条わたりの源氏
六条わたりの院
名なるやどりも
大井
これはうちうちまで
のまゐりなどもいとかしこうすべ
家の司
れば人もて
花
げるなどもの
のるはしたひびきといみあへて
うちはそでと四文字
なるもいとうるはしうすべ
つきなずさうげあまる
ようもんもつるさやう

源氏物語

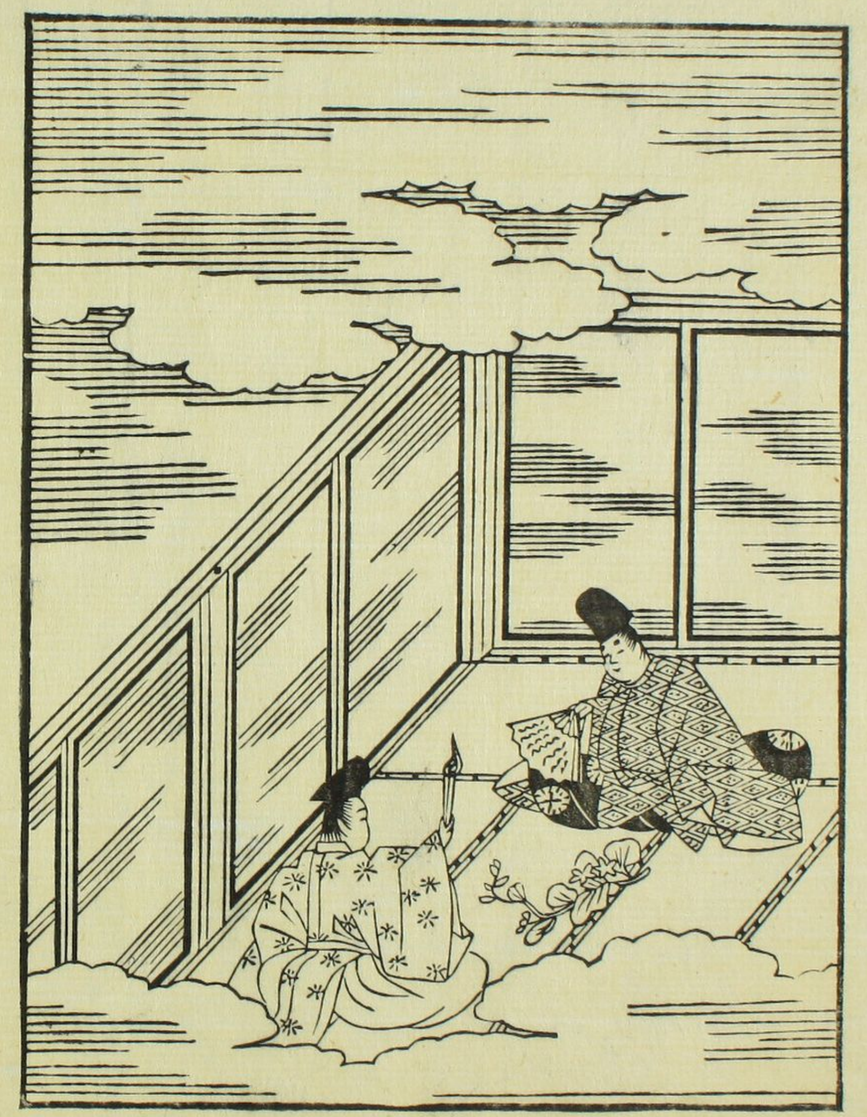
心ちぞすゐいうるもよ
ぐるりてお[illegible]車も
さえもまゐ[illegible]ず。雁(れ)と
てずうちのぞきものへれば。いと
なるをもて[illegible]のぎうちられの
さするあと。衣(あれ)おいげてとゐもしなせば。
[illegible]のうてなもおもしろきうちけぶりも。
いとあやうるうごの[illegible]ひろ
ゐよ。ろうさ(さる)ぞ。ものれ
けう

（源氏）ゑちごへはゆくらひとりごちてまつをた
（ずじん）随身ついおてゝみちうけてうまかけさせてうあやまちさせ
ゝ作り笠（かさ）の名いひとあやまちさせ
まなんさしかけるとゝげ（源氏）いとお家（いえ）ちゝもの（枕冊）ものもあやまちうみ
うげるわうのこゝろ（心）ぢよもうのもあやまちうみ
ぼひてむものくまちあのつれづれまぎらひまち
それを口（くち）（源氏）の花（はな）のちぐさやひとさありて
まいれとの給（たま）へば（頭カ）このをとこ戸口（どぐち）にさるすゝしのひ
さすがにされうやと門（かど）よへてお
よへぐるまなどくるわうのおうげ
なるむ（そ）ゝてぐちまゝくあ（あき）扇のいとこゝ

ゝをとれはゝてまいつせよ（きを）もなさけ
なあるをゝてさせ
紙（かん）トのいぞ（ぞ）ゝてゝ（源光）
まぐさ作ていとみ
あやめをへわくべきん
らうぐはすさ（なが）ちまたちおつまゝてとうこ
まうゝひさいれてあよ阿闍梨（あざり）
むこれこうはのうむすあ
まてうくおうまゝなさゝ
こまる（大弐乳母（ざに））のまんもおさあ
ども（まそ）様ぐくふまへ

ほしひとつなりてあれば(あき)ぬる
もえそ(そま)ずふのまつ
なれどなげ(ひさ)くうらめんもあ(とき)ふるろ
ぼそくおぢゆるをさ(れ)
なごころやうかひもおとあをそ(そで)のごひのる
れ袖(そで)のまひもおとあをそでのごひのる
げよとへばとなべくもそでうらうる。
なまぶんをもどうとみつつぶれうちる
これり。修法(ずほう)などとこそむべきとなどとさて
のおりをてやものとてこれよもそくめてぬり
つ扇(あふぎ)はんずればとてなるうつる番(が)いと

ふこうなうとうすこひさそり
名心あてそれぞ
夕ぐれの空(そら)



源心
そこそこなくさまざまうつろひあてな
よゆへづさられば（源汀）いとおほうらめ
ゆへ（源汀）これこれまことの家の月なるべ乃
まもむそとひろてやとのまへ（源心）のうさき
れ心ちそへど（北光汀）ふ六日こよそれ
ど病者（やまひざ）のとなりのことえ（き）ばなどうちそ
となりのことえ（き）ばよろづ（源汀）
この程ばかりてとそ
あはぎれ（源心）ぬべきを
あるうの心ちれんも
惟光
いりてうのやどもりた

惟光汙　三ケのこ

やうめいのをけなるへの歌よなん作りけるおとこ
しゐ中まうでてあなんわくことこのころそでし
らくてなどいふもひとのえさうやうめやあんと
さくといふもびとのえさうやうめやあんと
おなれていくるかく（汙）ささやの文づくべきなる
やあんとらびをど（汙）さて笑（汙）くれるころろ乃
まくうずをぐ（汙）ぐれで（汙）迷いのこれるまた
おもあれふなめうしれたうみよいうあ
らめさ海（汙）うさへのそ
（汙）りてそ（汙）れともえそれは海の

ばのうくれのタ（汙）ぐれ（汙）晴（汙）ぬ（汙）しる
つくす（汙）まぐ（汙）くあれさ海なりそれど（汙）いとふく思
あそれまくるれそばめ（汙）氏ますぐさで（汙）さ（汙）なぐろ
くけるをれいくへもるく行くそれでおまろる
なさまぐくわざとめうしそれがあまえていなる
うんなどのひろうべめれど（汙）笑（汙）ざ海（汙）しと
ふひて（汙）陪分いまうりめ（汙）れさるれまほかのまて
（汙）いくまのびてなまぐ（汙）でとみおろくそぐり
ひまぐうくまの火のひろ（汙）ぼろろけるは
のくる（汙）衰なう（汙）れ心（汙）ざ（汙）しの面まおこぐちもんさい
なぐ（汙）ぐべての面よにぶ（汙）ぐのぐろろろて

すこなるのそうう(添心)
さことなるまあうつくさ(クダビ)れみるほ(ほ)ーみるべて
あるずう(ほ)ほとめてすまうてねすづまて日さー
出の行るよぞてまあ(ほ)ーけのれすぐるくげる人の
めぞてそんもことうーる(ほ)さうまするまる話
こみたまへわうなれどぐつるさーみれ(ろ)ろ
けんわうなれどぐつるさーみれ(ろ)ろ
とまりていうる人のすこうなんと(ゆ)さる
れめとまり話うり(れ)先日ごろありてまいれう
わづ(惟光)ひ行る人なれ(ろ)ばげる行ればどくこものひ
あのひてなんなど実てだ(ろ)くまつてうて実

おのをれー(のう)ばなんどそうのこたりて行もの
ようびてそ也行ーぐ(ろ)ぐもア行ーぐ
いたものびてさつ(お月)まれ(ろ)ほひうもの一話人
なんあるべれどそれ(ろ)ほひうもの一話人
人ぐこれずとなんア(ぜ)中垣(がき)のへまう
行るばげよわうさあどもものすさげそ行たびう
ぐうまれぐくりひうてうづく人行な
めり(そのふ)日夕日のくうう入て行てう
ーさうくてあそ行ーぐ人のほそいてうく
行ーぐおたるけそひまびて人でもたのびて
うちなくこ夜でとんたるくこ行うとこそ在

(ほ)まうちゐ ことのついでにやとらもほしうおも
えてなもとるべきされ分のほどなれどれうひの
程人のなびきめでたうおぼえてうちとけ
給はざらんもなさけなくさうぐしうべし
人のうけひうあはどまでよなばそうめべき
あるうのやうにこのまうばやうものをと思
どうもしこの(悦光汀)へうとうもやうなどそうるさ
つめでつくり出てをこなどつけしうさ
うさなれうるまでこそ(侍)どうちとくゐうるなど
さいてこはうういあわくどもなん仰らめうと
きこの程ばかれいひとそ(汲汀)れよどひとそでいさうぐし

うりなんとのつまうふ(添汀)れしもどーもおもひお
とさうするおなれどそれ中もやひのほうま
くちおうこめをこうけうんそもめづうう
おもほさうさそれ(うつせ)蝉のあき頃さうれ
なうさ民この世の人のはどびてなばすよおいうう
なうまうばふどうてもやまちょうてもやまあ
べさ民いてもれくまうけてやこんをふようくあ
おりなーやうのなうくまでいおもほーうう
ざりつさ民ありーあまよ夜更のーかさめれ(のち)ぶ
うくおもほーなまるれうめるれうろなありうーうくまく

まちつれ(待)ど(ば)なるころの人と(あれ)を(ば)さ(あ)
まもあれ(ば)ど(ば)これなく(て)こそみるらんことの
くげ(ず)しくれ(ば)まぢ(ず)
おぼ(ば)さるる(ば)伊与(いよ)のさうけ(ず)のありめまぢ(ず)いそぎまい
れうよ(ず)かこちのさわぎよ(ず)て(ず)まうでろこやつれろ
指(さ)すぐ(ず)いとあつくよ心(ず)づくるま(ず)・これど人もい
やーうあすぐ(ず)よ(ず)うちなどのびれどこそび
まそ(ず)ぐ(ず)なぐ(ず)ばくうまうでつくてなどぐであり
け(な)る國の和泉(いづみ)なるよ(ず)ゆげ(添)こそいくつとこそ(ば)
くおぼ(ば)やどあひなくもまばゆくて(た)ころの中(うち)は
おぼ(ば)ーぬまうとこそ(ば)ぐなりおまめやうなるお

おとるばくく思もげよおぼ(ば)こぐまーう・ふまろめうさ
わざなりや・げよこれぞなれめなうあろさなめろ
とむまものうこのいうあおぼ(ば)ーぬ・ふとおーこそよ
つれる(浮)うふくもろこれど人のろめは衣(あれ)とおぼ(ば)し
なろろ・む(彩絵歟)ずあをばさうぐ(ず)ひよろさなづくて・み乃(さ穴)
むをばおてぐ(ず)りめべーとろくのよひよろさな
らあ心あてくさろてこ今(ま)てびいえあるまぐ(ず)さ
こうまやとぐ(ず)ぐ(ず)ろひまへど(ば)人(ば)のろろを
あうせーうんこまてぐ(ず)ろうえーも
まぐれおまぐ(ず)ろ伐まぐ(ず)てびるさよ思
て・ふまうろうぐ(ず)とひろれう・

（九悩心）
さすがにこころにてはおもはねど
いふひるくうるべきことのやうにて
くのれうくなどなりてくるしつなげの
ぞづひようけるとの梁（やな）あやーうらう
しげよめとまるべきにてなどして（恣）表と
なーめべきくのけるひなれづれるくねるき
ものうすれどそるおぼすいまーうん（新語抜）ぬー
つくなる（よ）ぞうちょうけめべくこしーき（ミ）
なるとこのこてとくこるまへど（れ）ころもう
ごうずでなりけう（わ）秋よまなりめ人やとなるくず心
ばくーるおもはーこぶるることだ（ゆ）りて大（たい）夫（ふ）ま

ーまの玉（を）つうめくのこひこころこるまの人り
六条わ（九息ホ）ろりもとけごるうしれ（ミ）紀色（けーき）をおもひけ
ろう（九息悉）ぬいとおをありまりなるまでおばーき
るれ心ざ（ゆ）まてようひの和（わ）もまびるく人のまり
ろれんよどくつこれの（ね）ぞあくく
あばーきるこころ（ゆ）ぐなう雪（そう）れいと
みろさなーこうそのうれるひて（泳）のろび
なう宇（り）文（ぶ）ようちなばこつむのと平（たいら）均（ぐん）のおもと

みうらし一万のぎまでうつりゆくと
おぼしくれさ桜ひさやりくれば花ぐもぐもそて
こもしのまり前栽の色こそれうをうばそて
やすひのへるさ風げたぐひるしらつのうえ
おはするよ中おの思れとまつふをん色乃
おりよあひうすものよおざやうよひさゆひ
しうこつさやうなまめうそうさうへり
まてするのまれうらんよおぼすへよ
ほうちとけうあまそてなしうえのさぐりで
めぐ風しくまとこ給
さく答うつてふかぐまおうて

迎うさけされ給ふ御いうですべうて、をそう
へまれぐいとくなれうよ
私雲のそれものもの
まふとああとぞでうと、おやけどうぞこと
えなす、おうしげるさあうてうそれ
まうしとさうめさひわふのすぐこの
けぐよ答のなうまでつてあさぐかありう
ま給ふ程なぐ思ようくまほしげなり

おほうとうとうちとけなる人ものく情(おもひ)
をやすらはまほしきほどくらうたげ
なるやこのけひとりをそもう
とつうまつらせざやと泳がひまいちもち
うずとこいまうとなどまもる人いやしを
まても花のかんばせあてやかにらうたげ
ぬいなりくらまいとさひらう
ことの糸もなうてさし乱色をそそまう
人のすこものく心をひらいでをろうう
ふこそそんあけれちとおそめ

心もとなくこと〳〵しくもあべうめりまことやうの雅光が
あびうりのういまみまいにくあるいとうくありてよ
惟光が
それ人とはさうよふもの
くれまづ〳〵さうなんそれをつれづれなる
まゝに書あつめたるなどやわうりき
つ車の書をれば
すべうめるこのさうもものぞきなど
そべうめるこちなんはのうなれどいとらうび
よ一日さうさをひてわうる車のえべり〳〵を
のぞきて〳〵べのいそぎて
ものへ中将
まろさうさかれ出てあかぬ夜とそうく物うる
いそぎはしぶりもれとうんとそひわうるうち
はしぶりもれとうんとそひわうるうち
うるわいうあのすそをものようひうけてうば
ひうれてそうもの高めべそれいぞこのぞうき
のうそうさうもうをうれともりうても
のぞうれうろもうをうれともりうても
ぐうて随分どもあめり歩いなをもそ
ぐとうぞへ〳〵中将の随分それどのりわ
らう成なん当うそ車をうまうとの給て

あくれますれどりーとおばーるふ
とそこのほしげられる気色をそて（旌光汙）わさくてのけ
さうもいとよくくさそて、あるかいもおる事もくさまへ
をさなどくさでわどちとさそて、ものなどいふ
わるさおもとの物をそくおばれさそなんどう
られまうりなりくいとよくくさうとさひて、
ちいさんどもなどの物うがとあやまりくは
ざさもいひまぐさうりて、又人のさ海をさる
てつうり物などうりてやくおまぐん（添汙）のとうひ
まもんつあぐでよういまうせさよとの名々。
（添汙）うりてもやどれうすまるねの程をいるされこそ
の人のうぐめあかぐでうくさのびてお
それ中ほさひの利（ほう）なおうくそともあくぶるど。
おもはすなそう権（れう）光いさくれともだこそろさる。
たぐそとさうまそのれもらまなさするさぶる
ていうぐくぐうりまどひりさくさのびてお
りまのさせそめてぐうり（地）これ（れい）例のまさ川（ほ）めをさ程（ほど）のことそぐくし
ぞ給そのばれも給（な）のうりそくまそでいとより
なうやつれのひつれいなくぶおりくちありき
給いさうおばさぬべくとられば雅光（わがむまをば
まそまうりて、ばとまるくいとりくばさうぐの。

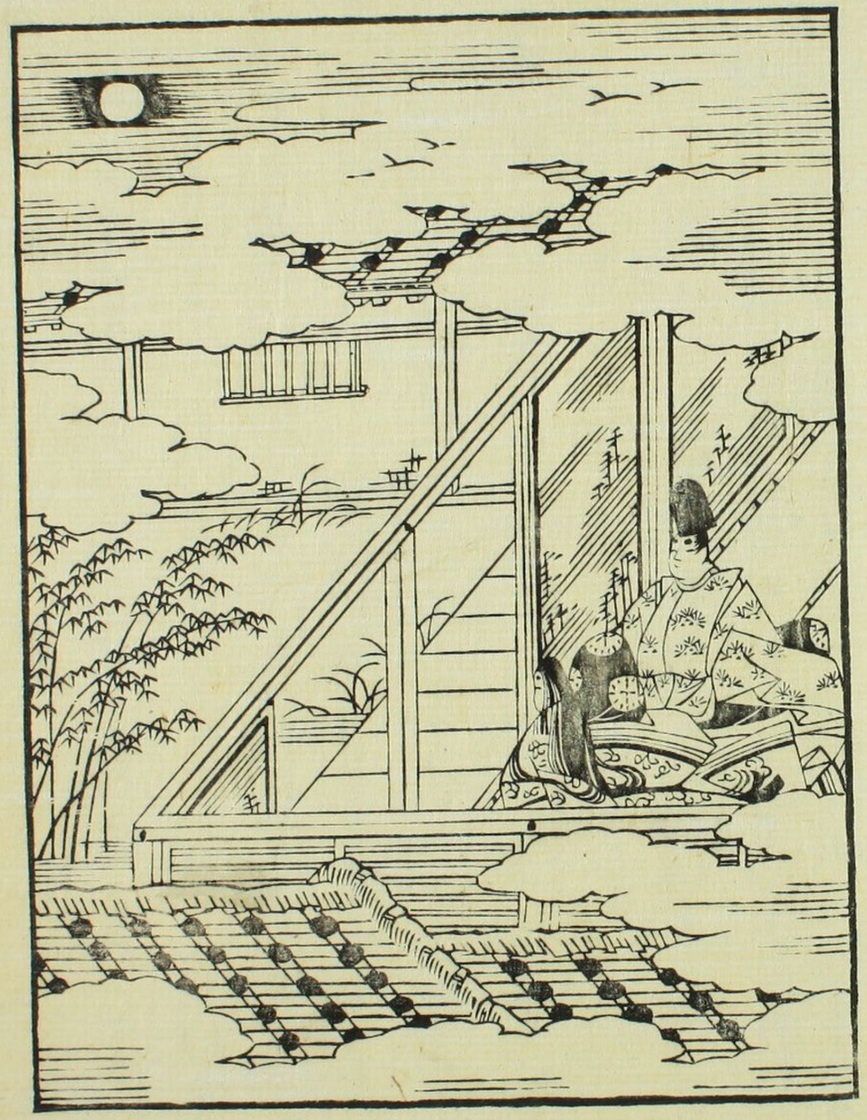
いとおげうさあしもつけられてゐんは。
うらくてもあるべきなよわれど。(ほ)人はこころを
ものあまくよれ夕ぐれのころべき(ばん)ばうざう。
さていうかむぐるこつるまやとて。
ぞおそおりけるまよ。
となりは中やどりとぞ(かれ)あ
やくゐてれつひと人とそへ。
あの月のうちをうぐもんともさ
であれどそこはとなすまでよ(あれ)衰
ここでいえあるまでく。み人のれいびんなくうぐし
ちいまめびとものぞるくおりもあるをいとめやす
くもびめめて人のとぞ(ほん)さずでよ(あれ)衰
ものへぶてもおぶつるくなど思ひづこれまへだ。
ふいいとおぞるおくく。ことばでさことの
さ夜よもあずとくやひとまの人(かれ)の
けこひいとあるまくやうよおぼどさてよ
のうく。ともこうこをわうび
こうもれうく。世をまぐもあずいもやん
ごとなきそはあるぐいづくよいとうこも

とまる心ぞと思ふこそなほ苦しけれ
さうぞくをもやつれうつりのれぞ涙をも
へうかをもはのそせまつる人を恋
びめて出でりなどしまへど（夕恋）ありけん
まのゝ名ゝ恋めそうそひなげうれど人
のれけそひうまぎりにまぎりにもうざ名れど
（れ）雅ぐりまはあんれこみ
わざるありと（惟光）ふいつをうるぐひなどもめてれ
なくさてずはそけくなひうめさ海う
しるまずあぐれありけぐいいうるこよりところろ
えぐくおぐるもありやたぐひうれさひを

なんさけるまほ（心）もくうるめていひうれ
なばいづこをうりとうわまもぐひうそめみ
うれ家（ぐ）とうるこれめればいづるようひろ
ゆうん回をいいひとうぐばすこよひまどい
してなのめは思なすはべらはぐうぐりの寺
さひうそもすぐるべきをそうよそですず
てんとおぼされぞひとめおぼへぐそさ名
まれくなどいてきのびぐくそうそうまぐでお
もはしうへば（れ）されとるて二条院（ぢうのゐん）へむへて
ん（ま）ま笑（ゑ）ありてびんなうべきをとなりと
おうべうそいへ我（ワガ）ろうをぐろ心やそうを

人うむことたえてなどいうらん（ちぎ）
なげきもはべらじとやすらひて（添）
くるさえとどこほりくのべどうべ（添）
れのへ〳〵となりぬめべくせひ（ほか）
なびきて（地ほか）
見なんとなりとも（あれ）
なげきひとくこころ
なぐさむべきたぐひ

まへど（もの）
給ふ（たまは）
絵（ゑ）
なりて
などいたづらにあれば（ほか）
さやうにおもひくづをれ
すてうしろみ
ふとむしろくべきさま
おのづからいりあひ
すまゐのさま
けうなるべし（ほか）
聲（こゑ）
ゝてたてるひまも（農）



あまつさへ　なのをもとうらい導師（ぢし）とぞ　ちがむなる
これ（ほゐ）さまたげ　あるべくもあらず
　ばば（ほゐ）くぐをとうとぶ道（みち）をもとうべきにこそ
ひろさちぐりたぐみ　もろ生業（せうごふ）のつとめさへ
ゆるくて　これをとうとさんとはひとさへて　弥勒（みろく）の
世とぞ　のおゆく（ほゐ）
　それの世（よ）の契（ちぎり）もとうべきにこそ
えてたのむべきようやうのすぢなどもさうらはず
ろうもとなりぬ　いざこころ有（う）るゆくあく
ぐわんとおもひやすふとくのままに
祖（おや）よりうる雲ぐれてあるを　ゆくそおろそか
るをばぼなるあさ（ほゐ）のいそぐさにて
て　ろうようのをもへれば　名（うえ）をそのりめる
のわろうちのをもへれば　ろうぜより（ほゐ）おりまつて
あげりめいづれのものぶぐを
ぢりて　ここのぐをへなくこぐく
勢（まう）もふくつけ
れば（ほゐ）柚（そぐ）もいろ
こといなくいぐりつる
まもありけるかな
いうへもうくやいんのまどひけんわぐまぐ

あれて、人めもなくいとうとましくもあれつゝ、けぢかき築
ちなどいとゝ見所(みどころ)なく荒(あら)れ秋(あき)の野(の)のやうにて池もこ
くさまうづもれいとゞ水(みづ)もけうとげなるに、
るかべちなどくづれたるいとゞ人すむ
べうもあれど、こゝろ(添刊)ばかりはいとゞ
けう(添刊)ありてもと、まれ(添刊)をかしうてへだてなく
てんとのまゝにうちとけうちとけうちとけ
つゝとさつべくそれだにげによべうちそへて
あんもじとのさ(添刊)ゆ(添刊)ひもなくうちまもりゐ
しこゝろよさそひ(添刊)のひろやかなるとこ
のまへにたゝりめぐらしたるいとはなやか
ひろあるとこゝろ(添刊)をとをして
ばのそこめぬくりなどのくさ〴〵そこれ
なすばなどおとけのゆくさまでこゝろ(添刊)ふかう
さよあゝいさゝかのものゝいまゞでこゝろ
しのへにむくつけしとのまへどおまへこなれば
とそこすゞろにうちとけあいぶれ(添刊)ちこゝろ
これもわれうちなあいぶれ(添刊)ちこゝろ
くろ紙(これうぢ)光君(ひかるぎみ)

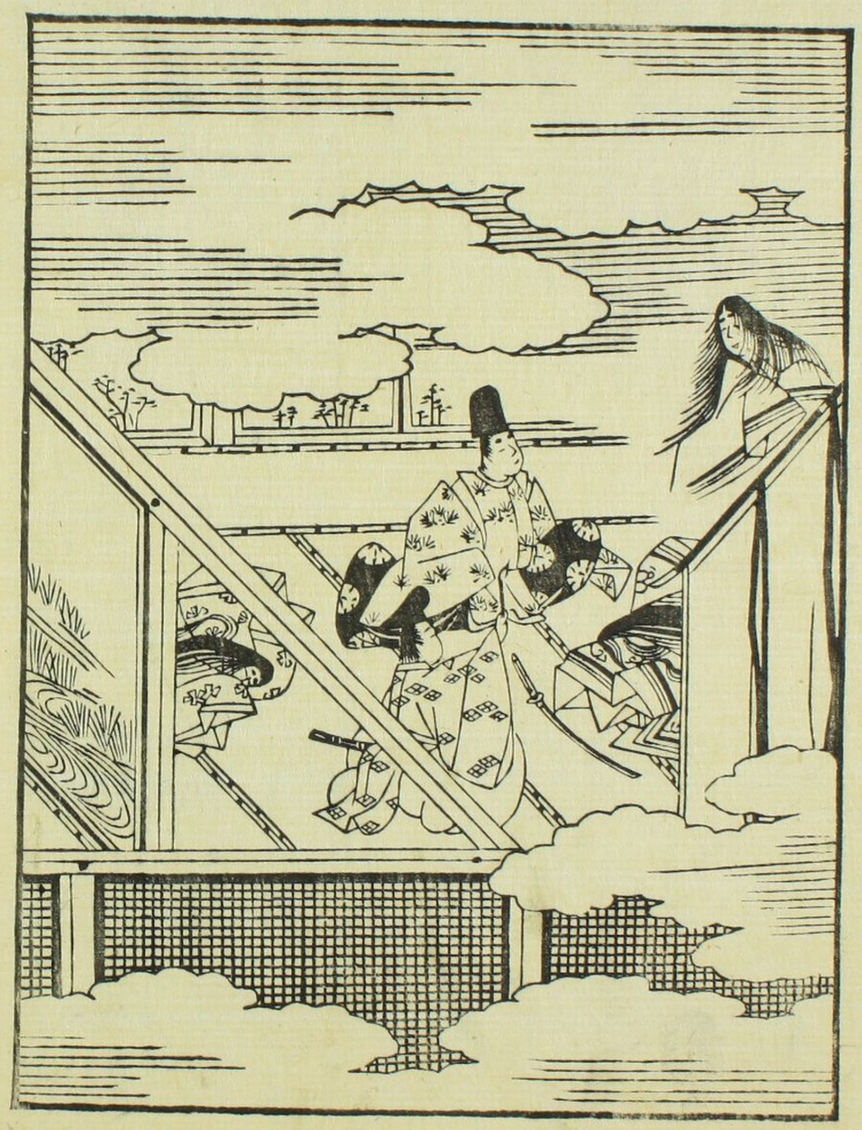
まつ〳〵す。（惟光心）女をとういたんこと
だにちくもえさめてひさ
つきさるもおうう。ちく
くとをつ〳〵ろ〳〵もみも。我いとよくさひちりめべう
つ〳〵こと〳〵ゆづりえてふひろさとをでめざ陥
ちうひとをふ〳〵とへなくこびるゆめべのそ
とをでめをてをくのるふれむつ〳〵と
あいもれば（添）ばーのすぐてこひみて
ゑへり。夕ぐへとこ尺〳〵てめもろありこ陥
と。思ひのほるあやちこをでふ〳〵ふうぐ
のなげさまれて。すこちとゆくそさ。

いとらうす。つとれるふくて。把
とおとろ〳〵とふひ心ぐう（給ふ）
ーとくおろーのて。れとめ
なくなりるれ（ミあらさま）ばそだを心のうちのべそ
のこーゑへるたんつるさとうこそふいる
もあそもんといづる（ゑ）ゑんとおぐー
やりて。ひいあやーのこ
いるあひこぶれまみんうこれんもく
ゑうこよくちちいとおーさすぐいまづ
ちひ。たるぶもなこむひとあくれと
おぐすまるよ（仁良ネくる）あまちふ（ふ）ふくひとそもちる本

れをかねてよりそうすてやと思ひこゝろぐれの
けふこゝろひすぢうほどよりねいりのへくる(ほり)ま
くらごゝろるいとおうしげるあめて・そのがいと絶
でうてとゝもるをぞさびもおもほさで・うく
こゝとゝもとなきくてゝこゝろめて・おそうてゝきめて
のみそいとめぐ海ーくつゝれとそてこゝみたち
さゝゝの人とうさおそくこゝろんとすくこゝのおもの(ほん)よ
をそゝろこゝろもちてゝおぼろきうこれば夢ゝきてう
そうこうそてゝおぼさればうちをひさめさそうち
さき亜のそて・ゝをとおそうてゝもそひ
さゝゝ海ゝそまいうゝれうこゝろのねぐ

おうてゝおそくこゝろてまいられと以人とのまゝ
いなづま(ほり)ぐうまうこんぐうてゝとゝいへぐ(ほり)あかうくし
とうちわーひのひてぐよをとゝさまへぶみびこれ
こゝろうこゝろいとうてまう・人いえ(ほん)まつうぐ(まい)ゝあ
まこのめだいこぐくかうてゝおぼされてゝいこゝ(ほん)海う
もんとゝこゝろ・ゝをもゝとくなりてゝれの氣色
なうおおぐをんわりなくゝをせ(ゝよう)みれ年正まて・
いまおぼこゝまうゝ(ほり)いとうう(ほり)仗
そひまそゝをのこみつまれをいまとおり
おぼされてゝれ人をなこゝろんてゝけぐやまびこれ
こゝろいとうこゝぐちくとゝる。

あれどさやうのまれ
おこ（去を汚）てまゐ（汚）うそ
うそぐれだ（汚）りけ（汚）ず
そそわりをくるぼさう
うつかとて（地）いさぐりま
うごこ（汚）のえ（汚）どをよく
海をれば（汚）とくくわ
どられめうをありとも
たそくまでわれ（汚）
まあねばちうされ（汚）
まてまれ（汚）とのまま（汚）
くえまいつあつ
ぼず（汚）なばまでそや
とゐ（汚）ろそてそこま
号（ゆう）まこつうこちし
わとそそうをあ



荷物語（にもつがたり）添（そふ）

とりつづでとこやしんでるる・おとこ
ものも云ず・まよつとそこひまりて・ゐるさまあ
べし・まもられもいるるんとふそこそこそとこん
さまへり・ゞびひとりさしくんでおばーやる
ろぞなそや・次ハ此のつぎまでこそやのさ
いよそそこ屏風のうこらうみぐ
くゆるよ・ものあしくとひしくとみこる
しりこうこうちうぶめおまてこうこ
ふこんとおばさあうちうぶめおまてこうこ
ーこーごひけるばごよ・表のあこほどのひこ
さ・ちよ私をすぐさんもうこうこうこうの声

はうこよ・のちよ・命ながらけてなよの契りよろこ
ゆをこそもんゞ心なごよ・表つきすぎなけな
くあるまでこそこそのむくひよくこそこる
りこそれありとなりて・門こうこそ
志のぶとも世をあるこうめり・
めされんこをそごめて・人のおもひそんこと・
ようあこそべのこそこうずさひるぬめべさるあ
つと・ありてなくごうべそこそく・
おばしめぐよ・他きこそれこの私下ま
ものこと私志よさこそごめこそこそ

つ

ちくおばゝめをとりたれどいれ乳色のいとごとき
こをれば分をすてゝもりよこ(ほん)いれもそてゐつゞ
いれのこゑをおてゐつゝとりくいでこゝろ
おつゝまするかなやまつゝげよこゑせまふなど
いへど小野のうちよりもとりもちてひもとくゝへて
そまよいとごとれどなどてのりそひてゆるぎ
まつゝんいさゝかりさゝゝんとゝんだ
すゝゆき別ゝとうゝやをそんとなまどひ
の中まもおばすまれひをゝあごろゆちをのふ
れどゝもいゝまもあるゝちもてゝいとゝゝ
くまどゝれるへゞくゝてわれもいゝごゝる

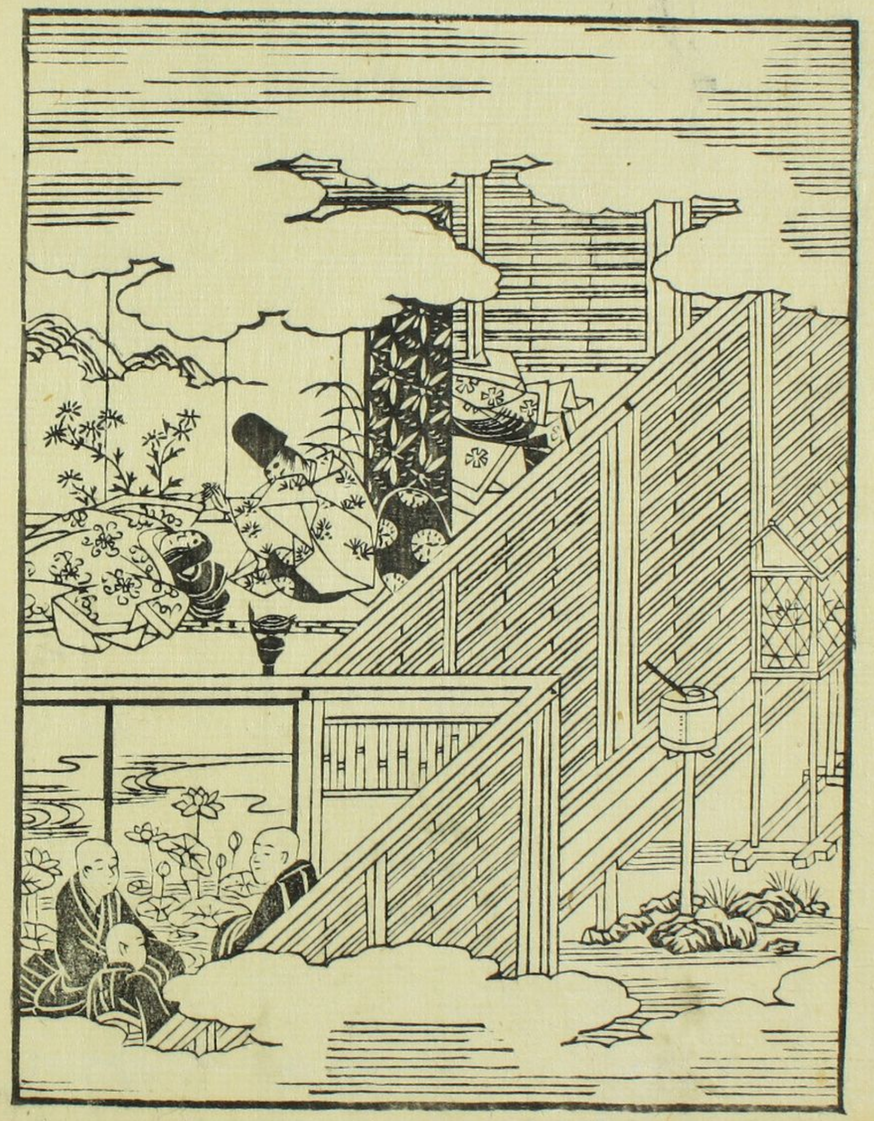
成めるなありとおばそゝ日もうくなれどおうさあが
まゐくゝへごあやしがりてゝけうゆなどそゞのう
一まゆ村ど心ろゝそゝいとゝおばそくゝる
内(うち)うれつゝひあり雁(きのと)日もえゝごゝ出(そゝ)なゝごりし
ろうおばつゝなどゝせまゝ(たゝ)おばいとのゝまえどち(まゐ)
まのへど頭中将(とうのちうじやう)ごろうちなどゝるゝは
いりまへとのまひてゝれのうちなどゝのまふ
めぜ(原刊)とゝて仰ものゝごろはひとうけ
おゝくわづゝひ仰ゝがうゝろうちひとうけ
などゝてそれとろてゝろゝを
これごろえをろうてゝ今ひと

なでうえのおほくられて惟光(これみつ)をまねうけてこ
りとのまうでたまへるにまいりたまへるにまいりたまへるにまいり

惟光が妹
の令嬢なども、よろ
のことなどいろ
べきことどもを、惟光
これひとりを
めくる日のそくめ
ん。げにこのよ
さめざめとなき
惟光
まへどもなくこれ
惟光
ふみがいとうるはしくお
べくれどいまいましきみな
惟光
いとおもうべきで、馬
惟光ん
いうぐそんやおくもまして、秋
くもあやおもそくもなど
まうけのくるうれさ
路にそくもなど
くあやおもそくもなど
うるいうまんとおぼ
のやうるくいまれ
世のありこちを
例のさ惟光
大武
三七

日の月うつりて、かはらぬ光も世の
うつりよ馬べかのくらなどやうつりかはるおも
ひつゞるもなどて袖うちみだるゝ心
ちのそおそつゝあはうさへすゞろ
なる座のうちはよそなるあまれ
すまおいて哀なるうへのつげ口のすきて
うあそれ座よりはめひとりなくゑのこゝろ
うよ活(うご)しくくの三人物語(ものがた)りつゞわざとて
ゑゝそめ会傍(えぞ)です。寺ごのそやもるかをこるひ
そくいとゝめやうなるよ。清水(きよみづ)のつゞひうり
ゑて人のけゝひもゑびうりけこれあまぶゑれ

こゝろ犬とそれゑゑよくて。強(こわ)うちゑゑる。
洞(ほら)のうちなくおぼゑる。いりのれが火とうそむうて。
吠(ほえ)ゐ座風(びやうぶ)つぶそゝゝみてうふうよびゝうんを
そのまおそうまけ。久執行(くしぎやう)もおぼす。いぶらうびる
ゑ雨ゝて。まぶいうくかうる布ゑ。てを
うゑ人て我(われ)よまゝ一うそびゑをぶるうせゑ人。
いうゑる者のちぶりまけ。をぶるの
心をつゝて哀よおぼゝゝのぶをそうすそゑまぶく
ゝまおぶうぶうゑゝ。ゑもおゝまぶるる



犬(北)とそうもうれつにほえあやしとうひてゐれなるだおとうしろ(ほり)をそうぐ二条院(でうのゐん)へとのゐんど(辛)をうけ(を)ろおうとうろく時(とき)立(たち)なれなまず(ず)なれ笑(ゑみ)てうそ今ぶそうろうれまうそいでてまうかうり待(まち)んいうをうりまひみそと人(ひと)もいひ待(まち)んるうろとそぶろ和(わ)そ(ん)ふうひさ(ざ)れ待(まち)んがうろぐろまいりなんといふ(源ヨ)ひて煙(けぶり)よりぐひてもうひろ(ろ)なれどさるん世中(よのなか)はありやうれといふものうるうろあいなうとあるもうろもおるぐ(ぐ)命(いのち)のぐうあるあるん

あ[illegible]なぐさめてやれ[illegible]
へてもくいは我(わが)ここ[illegible]
すれとの給(たま)もまもれまし[illegible]
なり給めんぐやうへ[illegible]
ほ[illegible]うのことをもれてむ[illegible]
まふこころにて安(やす)けさあら[illegible]
びこともなくまふゆ[illegible]
うちみうつう夜[illegible]
ひづくれなおのれそのう[illegible]
なりけんちぐりふと[illegible]
まもるぐもくのう[illegible]

これこひすけてお[illegible]
狂(くる)そ馬(うま)ううすべりお[illegible]
ひくれば(ほど)ううちの(そう)[illegible]
んざうにえうさつてもど[illegible]
よこれもうちまぐ[illegible]
のうみともうう通(とう)よおそ[illegible]
なよいてい心あそ[illegible]
あうひて清水(きよみづ)の就(じゅ)を[illegible]
ぐひまぐよ(ほ)ぐみもおそ[illegible]
のうちは佛(ほとけ)を念(ねん)じ[illegible]
まてちん二菜院へう[illegible]

みうきれありそばくべくごろうさうろ。これ
ごろ例（れい）ろうもこべ心なるされ再びありこれうち
ろうなろまも。昨日（きのふ）のれ（これ）ろうみてなやまうう
えろうろうまでいごくごろうありさまろんを
なげきあくろう（ほ）まろまろうまてろいろと
いくくろうごろうまろて二三日よ女めろよむげよ
ろろうやろうまろうまろ油（あぶら）ろろうめろうなげ
くくろうごろうなろ。ほ（ほ）しいのろうごくろひまるくの
ろろまろうろくへずは（ほ）ろひろうすべくもあろ
ず。せろたくひるくゆくろうされ（あり）ろれば。せまる
ごくおりろうまろうごろうやとあめれろうの人のさい

ごろうろうろ（ほ）うされ少ろうまうの名ををろうまて。
為（ため）なごろうくのてろうろうをろ。これいろうも
さろごまでへごおもひのどめてこれ人（大迫）のろうご
なろとろひろうとまろうろうまてろう。
ほ（ほ）しいさろう像（ひな）ろりてろうろうろうめ（なを）ぬて
ひろひなごろうまへばはどるくまでらひろうろる
ほふごくよろうろうろうろうなどようろひど。
ろるわろうごろうろうあわろうどろりあやーう
ろごうろうけられ（これ）契（ちぎり）ろひろれて。れ（これ）も世ろえあろ
まごろるめりとばのこみこうーなひて心ば
ろくろうんなごさろうもまーなごへごろび

まことぐまんとこそさうぞ
そひぬべきさがにおくれと母び
やうのものひてよばげまふ
ことをさそていうぐうう
うらのくあてをそこまやまぐおうちうれつひ
ひあれあてよりもばげまふ
そまますばそのまよいとうぐさおち
てつくそてなる大飯(たいはん)もいとくけいめいし
まて回ごまわうのつ洗ふうまも女よ日いとをまくわづひまへ
れどいとなるおごうのそばまこうざ海なこ

ふまふばげごひいう話しもひとりこうちぬる
よなれおば(ばん)つなぐくせまの心わりなくて
肉(しし)のれとものねずる条(まいう)なぐす大(たいたい)とものわが(こうぐ)れ車
まて学えくそまうりのてれおいこるやうやと
むつうてしませなりのわれ(ほん)もあ寸
あくめようとうやうまぐいそしまよ
九月(ふづき)廿日の程まぐをこうそてまて
おもやをまれど中くいうぐうな海めてう
てなごあごちねそのこるまとぐむる人
もりてれまのくけおめりなぐいまもなり赤(ほ)をを
石出(いで)てのどやるうタ暮(ぐれ)まて。

（添）おいとなんあやきちぢてそれ人ときこせで
とけくくいのてりくでまるそみとさこで・椒（まと）あまれこなり女（さ）ざの
とのみへ・なず（たを羽）そうみくくくくこさてして名こと
ゆえん・はの程まそうみ
なさんそでめりあやも
はこよなれだうつともそ
はれ名（な）ごくもさづりまこそつとつ名しなずご。
ち紙ざりまこそまぐ
さこよくそくりくしとつ（添）れがあいるりけ
こころくべどもるみまれ

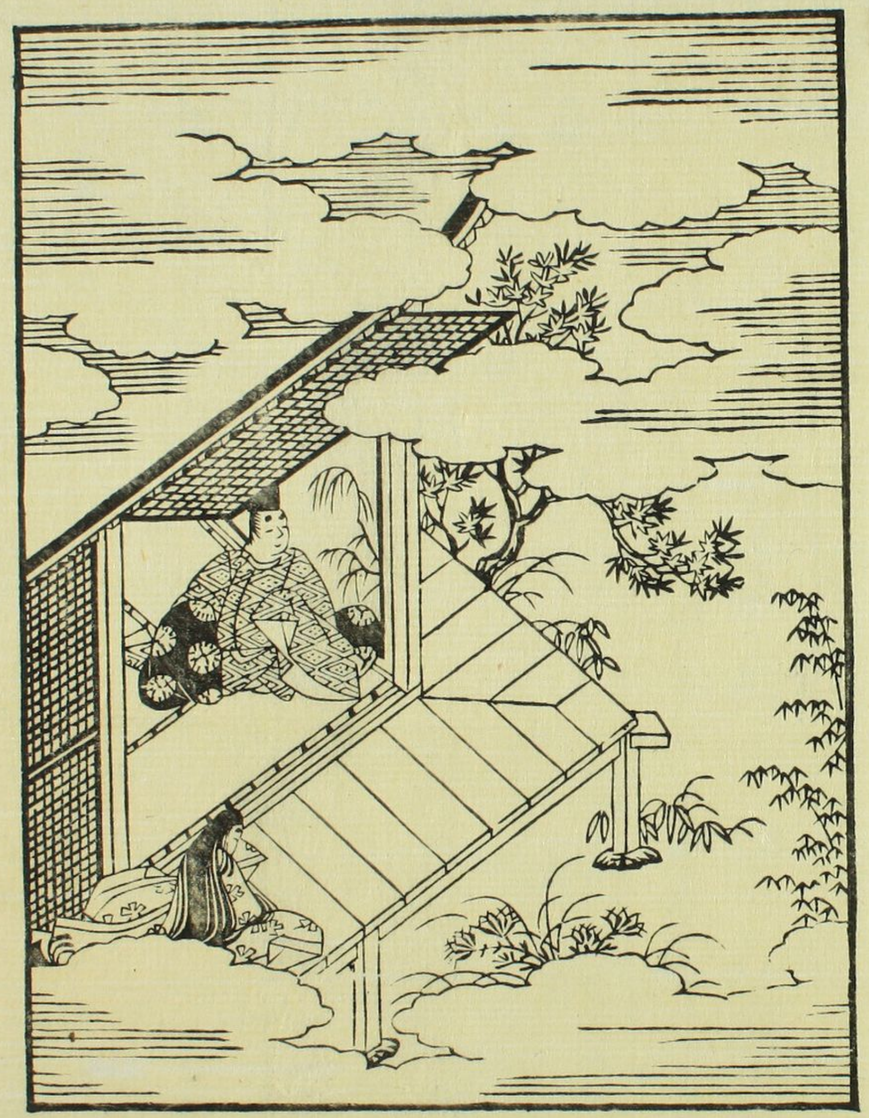
なりさ・ごうやうなる人なゆるされめうまひを
ちんまぐちそうあこと
するぬそでめつむしる
人なこそれごくをいも・ごころをうさりなし。
うささ男の官（ろうま）なちんあう紙ざれりしタ
りあやそうこころろまはうりてあおごちまこまり
しもうべさちざりまこそいおしのひろめと
そみも表まん父うちんへつこうおゆを
うかごうまでさそいおどさしもこころる
そこて表とおぼしのひろん我くそこうこる
れいまいなるごとをうくすべさそで・七日（なぬか）くの仏（かしけ）く

そてよござーあとう心のうちよも思ソんとのまへ
ぐ・みまよう八へぐて学しさせ侍んごづくをのび
すぐーまひしーとをたてされうーろよ・ろちさが
なくやいくかのまぶぐろうよなんちやちいろや
うこをまのまさ・三位中将とまん学しいとらう
ささまれよろひ学しまぐ・我男のほど
の心まとなきれおばすあうーは・命さへさまま
そぶ必ようはぐろるさいものくろうて・歌中将
ろぶおねよまのしまし時ごそめをもせまて・三
年ぐらり八心ざーあるさ侍ようひまし・ぞの
秋のしぶの水の大変ろりいとちそろきとお学

まうでうよ・和ろぐろをろなくさ侍しは心よ。
をんろなう学てをぐろてまの家まめれもの
すさ侍る所なんぐひくろれまもいと
ごろくろすさろびまして山里ようろひるん
と学ろしーとをとうちいみるぐりけろさは
伽ろれば・ぐふてあやさまあよまれ去給しを。
こあいされまりめろこととおぼーなげくめりし。
ようひとおづまれてくこれしーまひて・へな
まれよ音文をろんぶづーさまれろうめ
て・ろれなくのこまてなぐれろそまて
ろしーとろうよ・ほんされぐそとおぼし

あけてよく衾(あけ)もまさりめさる(添刊)
りこと中将のうれへ人やとひあ
ほ(添刊)うおとゝ(ろ)の墨(ろ)でもみしりめぐり女
いとらうらげなんと男(添刊)さていづこまで人な
きといふまで我ながらよるくいと
とおもふれうることいとうれしくとくべくなんと
のおぼえ中将もてうべくれどいふひるき
うごとおひなんとき殿うざ殿よつけてぐ
まんまとぐあるまで(さ)殿それあんめれとなど
よもことざ殿よりひなてあをようしなど
うこひおぼさ(ろ)ばいとうれしくなん仰べきれ

みの京そおひ出給(添刊)なんい心ぞうこうなむ
そうぐたくあつふ人なすこととそてぐこそなんと
男(地)夕(れ)暮のおぼ(ん)ざ(ざ)のお裁(ん)れぐこお(ん)ぼへのお裁(ん)れぐこお(ん)ぼ(ん)
みぐちやうくらごて(ね)もるされて
おもろさ殿うわてて心(かを)よりほうおうこさ
まぐらひれとうれ夕ぐれのやどを思(ほ)もろぐ
う作(なり)の中(なか)る家(べ)ぐぐくいふ島(とり)のよりくうり
なくとそ給(ほ)うぐありこ院(ゐん)まこのとりれるさ
しとおとおそろこひとりこ殿のおも影(げ)
ほらうこくおもほしぐるれが辛(添刊)いこれよう



（地）おいそ家のこぞんまつおりあれど、こよひはあるじ
ーやうなるこころもちしてもゝ名そ〇ばう〳〵とお
ぼーそこそこけう（況）ふけいでよ（夜）おーとゝもよみくよび
らひまをそゝくてすゞろうちなげさくり。
とをくこゝろすんとすうをさすがる心ばそれ
だおぼーますれめうとくろこゝろ文うけ論
そうなやむをよそよいでくいそこそ
（宴席）よそゝめをもたなどゝやをさで狂あるよいう
ざくりかいもひこぶるまうすぐまとまなんと
そそしうめづ（詞）こそこれもあくれまれ
ぬなどゝいけうひなまや。こぶいはまーごゝろ

（添）竟（競）の世いうさまれとゝうまと文云のと
そよううる命（のう）ら（地）そうるまへやとれてもうちわなくう
ゐまへらぶれくさまへ会いとうりくばり（況）れ
れもあをを忘（ふれ）のうあをいをおうもおうも
さひくりやうみくぶくとはさすぐよいふうひなくうぐ
こしなりてやこなんとふなりくうれくうつ
うい花（ふど）人のおねをなんとよそ寺とこそのふ
あやーやいうよさみてんとおねのころのうち
もいとおーうまるうれ人の文もゆーそれば
小ぎまそ（文刃）よくりさふころいまりうまへやや

といひつゝ
(ほ)
ほのぐらき行(ぎょう)灯の篠(ささ)をむすぐばかり(つゆ)のごと
(地)
き我なるまくらけまし(地)やるるおぐるよりあやまりておねもこれ
びてとのぐまくぐぐうちひねくをばざりともつこれる
てゐれなりそうよ
ーてんとゝおれ心をごりぞあいなりそうかれ
のなさありよみすれば心(新拾玉)うーとゝへどくおば
ーむするもすてくれそうちとさざり
とぐどくそくこれ
(数)
ほのめす風よつけてもそるおざのるばそ
(地)
霜よむすばれてはあげなるをまぐざり。

ぎれごそてういうさ海もそうし(ほん)ほげよくうし
ふかおばーむするうちとけてむうひねそうへ
えうとゝくこれまぐさ海もそうしれなるの
心ぐをありげもなくさうどさほっそうしよ
とうばーむするよにくうずなる(地)とこりずるよ(ク丸)
ろぐえいそうめべさ(ミ)れ心のすさひなありうれへの
四十九日(なんか)西(さい)びてひくしの法花(ほっけ)堂(どう)ておくそぐさ
うぐくそうぐめてさもれどもそまうぐ
経(きょう)なぐをもせよ(きょう)仏(ぶつ)のぐりまてそをそうるぐ
旧(これ)光(こう)があよの阿弥(あざ)陀(だ)梨(り)ておくそうさへてまる
しくうれおこれ師(し)そむつまくおばそ文章(もんじょう)

ぐもめて新文つ
あれ衣とやひ一人のそ
あらぶ仏よゆでりそ
さるおまへれば(牧士村)ざうく
ざありとー(保)すおのびの
いうぐくおぼーてげうぎりけ
笑もなくてうびう
んずくをれさよといひり(保)ぞのびてうぜ
そもまりけさぞくのそ両をとりそもの
(ほ)なくくもふいい我(ひが)ゆまるひもばいづれの
せようりてうべき(保)山(なだ)行までいてよるな

いづれの道(みち)よりてかおもひくらんとおもはしやまつ。もんずをいてま。頭中(とうのちうじやう)将を
こまおまも。あいなくむかしの当様(とうざま)さえをせまねし。それどそこを
のひとりおぼえず。みタぐれのやどりのいづる
ちどうちおぼえず。みタぐれのやどりのいづる
まもやひまぐへど。そこ(そ)歌(うた)の君(きみ)ず。名(うえ)を
ざるをとづれのびおやしとみもひをげさあり。
さうそうねどげそうやとさめさ
もぐ。指(れら)えをうてけるれ気色(けしき)
なくいひるてをおるでとすさありされ
だいぐゆめ(ゆ)もてまずるやのぞも

のすさびくさぐさ乳(ち)のもとをぢ学(まな)てやどてかへ
くぐりけるやとぞせひらけるそれがあるぢぞ。
うの家(や)のめしものむすめなりけるが三人(みたり)その兄
かりておもとにくへ成(なり)ひ降(ふ)てくれ有(あり)さまを
きゝめくりくりとなるさこひそうおもとうつ
しまくいひさはげんをうひてまもいまさらよ
まさでとゆびのへにげつぐさみうへをぐこえ
さうぞ。けうまくゆくゑなくてもし。まいゆめる
ぐるこゞやとそうわるる。こゝはうしと云て
父の乗(の)のうまれありし院(ゐん)などひうし
女のこ成もおるぢやうそくれで。あれうり

しくろうすさくんもみくれまこれんさ
りよくくなりめうこくくみばしぐるまも。
ゆくしくなんいうれすも。北(きた)の方(かた)のつうもぐろ
まぐろ。女房(にようぼう)のうぐこんまくそ。むけ(そなた)こる
きせのまうまうくまもわぐこまくまうて。
こ成やうおくこさ成なう。あこぐおねく
してめさなどわざしまくてみこち
さつくる
ゆまでのくこぐりくほどるひうす
袖(そで)のくちるけうる。地(ぢ)すものやうるこぐもあれど
うかさればくぼれつひそうれど。ふ君